

令和8年(2026年)2月19日

報道機関各位

函館市消防本部庶務課

行事の取材依頼について

このことについて、下記のとおり実施いたしますので、取材方よろしくお願
いいたします。

記

行 事 名	消防協力者表彰
日 時	令和8年2月27日(金)午前9時30分から
場 所	函館市消防本部5階 防災多目的ホール
被 表 彰 者	1. <small>しばた そら</small> 柴田 蒼空 2. <small>たかぎ みほ</small> 高木 美帆 3. <small>さとう かいせい</small> 佐藤 快晴 4. <small>こむかい けんた</small> 小向 健太 5. <small>すがわら かんた</small> 菅原 寛大 6. <small>わたなべ ともえ</small> 渡辺 智恵
内 容	令和7年(2025年)11月19日(水)午前9時08分頃、 函館市若松町7番5号先路上において、心肺機能停止状態に 陥った傷病者を現場に居合わせた6名が連携して救命処置や 救急要請をするなど、傷病者の救命に大きく貢献したこと に対し、消防長から感謝状と記念品を贈呈します。

〔 庶務課庶務係 〕
22-2142

《 報道関係者用 》

函館市若松町で発生した心肺停止救急事案に協力した
市民等への感謝状贈呈について

1 協力した市民等

- | | | | |
|-----|----|------------------------|------------------------|
| (1) | 氏名 | <small>しばた</small> 柴田 | <small>そら</small> 蒼空 |
| | 職業 | 学生 | |
| (2) | 氏名 | <small>たかぎ</small> 高木 | <small>みほ</small> 美帆 |
| | 職業 | 学生 | |
| (3) | 氏名 | <small>さとう</small> 佐藤 | <small>かいせい</small> 快晴 |
| | 職業 | 学生 | |
| (4) | 氏名 | <small>こむかい</small> 小向 | <small>けんた</small> 健太 |
| | 職業 | 会社員 | |
| (5) | 氏名 | <small>すがわら</small> 菅原 | <small>かんた</small> 寛大 |
| | 職業 | 会社員 | |
| (6) | 氏名 | <small>わたなべ</small> 渡辺 | <small>ともえ</small> 智恵 |
| | 職業 | 会社員 | |

2 対象救急事案

- 覚知日時
令和7年11月19日（水曜日） 午前9時08分
- 事案発生場所
函館市若松町7番5号先路上
- 傷病者
62歳 男性
- 傷病者の傷病状況等
 - 収容医療機関
市立函館病院
 - 傷病名

肥大型心筋症

ウ 搬送後の経過

令和7年12月6日（土曜日）に市立函館病院を退院している。

3 通報内容

「50歳代男性，倒れた，意識朦朧，意識呼吸なし，AED持ってきた，口頭指導なし」との119番通報。

4 活動概要

通学途中の**協力者(1)**は，事案発生場所（大原学園前付近の歩道上）に倒れている傷病者を発見し，直ちに119番通報を実施した。

付近を歩いていた**協力者(2)**は，すぐに駆けつけ，状況把握するとともに，AED手配のため大原学園内へ他の協力者を呼びに向かった。

さらに駆けつけた**協力者(3)**は，傷病者を観察するために側臥位から仰臥位へ体位変換させた。

事案発生場所の道路向かいの工事現場で作業中であった**協力者(4)**および**協力者(5)**は，異変に気付いて駆けつけるとともに，**協力者(4)**が，傷病者の気道確保を実施し，呼吸と脈拍がないこと確認した。その後大きくゲップするような呼吸を確認できたため，**協力者(5)**が，仰臥位から回復体位へ傷病者を体位変換させたが，呼吸が止まったように見えたため，再度仰臥位へ体位変換させた。

並行して，付近を通りかかった函館市消防本部の非番職員が駆けつけ，意識，呼吸，脈拍がないことを確認，ほぼ同時に**協力者(6)**が，大原学園内からAEDを持ってきたため，そのまま**協力者(6)**が，他の協力者と連携し，AEDパッドを装着，電気ショックを実施した。

その直後に非番職員が胸骨圧迫を開始し、まもなく到着した救急隊へ引継いだ。

5 功績の事実

各協力者は、倒れている傷病者を発見し、予断を許さない状況下において、冷静沈着に傷病者の意識状態などを把握し、迅速に119番通報を実施した。

また、駆けつけた各協力者が連携して心肺機能停止状態を正しく判断、さらに、持参されたAEDを装着して電気ショックを行い、ただちに胸骨圧迫を開始した。

その後、到着した救急隊に引継いだ結果、後遺症なく社会復帰できた事案である。

さらに各協力者は、発見時の状況、観察結果および行った応急処置の内容を適切に救急隊長へ伝達するとともに、救急隊が医療機関に向けて出発するまで必要な活動支援を行うなど、その行動による功績は多大である。

なお、傷病者を収容した市立函館病院救命救急センターの医師から「この救急事案は、複数のバイスタンダーが連携して、直ちに119番通報およびAED手配、胸骨圧迫、さらにAEDによる電気ショックを実施したことが奏功したものである。心停止の早期認識、迅速な119番通報および一次救命処置という救命の連鎖を途切れることなく速やかに繋がられたことが、傷病者の救命の大きな要因になったと評価できる。」とのコメントを頂いている。